

群馬県桐生市において韓国山林技術人教育院、韓国森林技術士の視察研修に協力

[前橋水源林整備事務所]

令和6年7月4日に韓国山林技術人教育院、韓国森林技術士総勢6名による視察研修が群馬県桐生市で開催されました。

この視察研修は、韓国山林技術人教育院 Cho,Yong-Gi 専任教授から群馬県に、桐生市での山火事再生・復旧にかかる視察研修の申し込みがあり、これを受けて群馬県から森林整備センターに講演の一部を担当するよう依頼があったことから、社会貢献度の向上や技術力 PR の機会、地域との連携を深める機会と捉えて受諾することとしたものです。

座学での講演は、当センターから始めて、続いて群馬県の順で行い、日本語での説明後、Cho,Yong-Gi 専任教授がハングル語で翻訳し研修者に伝達する形で進められました。

当センターの講演内容は、以下のとおりです。

1. 山火事復旧・再生に携わったいきさつ（早期復旧に向け地域と連携し対応したこと）
2. 山火事復旧事業について（当センターの技術を活用した復旧（新規契約と面的整備）について）
3. 山火事跡地の復旧・再生効果の調査確認・検証（研究者との連携した復旧再生効果の検証について）

時間の都合上、当センターの技術を活用した復旧については、概略的な説明が多くなることを想定し、研修者が後日確認できるよう森林整備センターウェブサイトに掲載している「水源林造成事業パンフレット」、「針広混交林に向けての手引き」、「育成複層林に向けての手引き」、「水源林 50 選」、「シカ防除マニュアル」にアクセスするための QR コードを配布資料に貼付しました。

また講演に続き、1 週間前に撮影した UAV 動画を放映し、復旧後の現在の状況を俯瞰する形で説明を行いました。

質疑応答の時間では、被害木処理方法や処理後の活用状況、山火事跡地の森林の生育状況、山火事直後は健全と見込まれていた森林が徐々に枯れていった面的整備箇所などの質問に対して、一つ一つ丁寧に回答を行うとともに、意見交換では、Jung,kyo-wonsin 氏（supsansaforestprofessionaloffice 社長）より「山火事再生復旧事業を行った後の効果を可視化しようとする試みは興味深い。韓国でも復旧後の可視化の手法が課題になっている。また面的整備箇所における FRD（フォレストロードデザイナー）や LiDAR などの技術を活用するなど進んでいると感じた。今後もさまざまな形で意見交換をしていきたい」旨の話があり快諾しました。

現地視察は、猛暑日であったため日陰箇所を探し、そこから見える範囲で説明を行いました。

視察中に Cho,Yong-Gi 専任教授より「韓国では近年、山火事が頻発している。特に東海岸では最近 20,000ha が焼失した大規模火事も発生した。韓国では山火事跡地の再生が課題となっており、そのための視察研修を計画した。復旧事例をインターネットで検索したところ、当該箇所がヒットし、研修内容に合致すると考え桐生市に視察研修の申し込みを行った。」といきさつを教えてもらいました。

また、最後に「群馬県と森林整備センターから計画から管理まで詳細な説明を受け感謝している。韓国の山火事跡地再生復旧に向け参考にしていきたい」とのお礼の言葉をいただき、解散となりました。

前橋水源林整備事務所では、社会貢献度の向上や技術力 PR の機会、地域との連携を深める機会となる、このような視察研修を積極的に受け入れていく考えです。



●センターによる復旧事業の説明



●センターによる復旧後の状況説明（UAV 動画）



●質疑応答・意見交換



●群馬県桐生事務所による復旧事業の説明状況



●センターによる復旧後の状況説明



●群馬県による復旧後の状況説明



●センター横断幕前での記念撮影

（執筆：久保田 撮影：佐藤）